

③1 幼稚園専門教科問題の解答について（注意）

1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。（マークシート右上の記入方法を参照）消去は、プラスチック消しゴムで念入りに行うこと。
4. 名前の記入 名前を記入すること。
5. 教科名の記入 教科名に「幼稚園」と記入すること。
6. 受験番号の記入 受験番号欄に5けたの数で記入したのち、それをマークすること。
7. 解答の記入
 - ア. 小問の解答番号は1から70までの通し番号になっており、例えば、25番を 25 のように表示してある。
 - イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。
 - ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。
 - エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

（マークシート記入例）

フリガナ	ヨウベタロウ		
名前	神戸太郎	教科名	幼稚園

数字で記入……

受験番号					小問番号	解答記入欄	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答
						1 - 25		26 - 50		51
/	2	3	4	0	1	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	26	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	51	0 0 0 0
0	0	0	0	0	2	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	27	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	52	0 0 0 0
0	0	0	0	0	3	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	28	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	53	0 0 0 0
0	0	0	0	0	4	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	29	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	54	0 0 0 0
0	0	0	0	0	5	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	30	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	55	0 0 0 0
0	0	0	0	0	6	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	31	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	56	0 0 0 0
0	0	0	0	0	7	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	32	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	57	0 0 0 0
0	0	0	0	0	8	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	33	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	58	0 0 0 0
0	0	0	0	0	9	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	34	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	59	0 0 0 0
0	0	0	0	0	10	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	35	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	60	0 0 0 0
0	0	0	0	0	11	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	36	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	61	0 0 0 0

【1】 次の1～3の文は、「教育基本法第6条、9条、10条」に述べられているものである。(ア)～(オ)にあてはまる適切な語句を①～⑨から選び、番号で答えよ。

- 1 法律に定める学校は、(ア)を有するものであって、国、地方公共団体及び法律に定める法人のみが、これを設置することができる。

前項の学校においては、教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない。この場合において、教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な(イ)を重んずるとともに、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して行われなければならない。

- 2 法律に定める学校の教員は、自己の崇高な(ウ)を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。

前項の教員については、その(ウ)と職責の重要性にかんがみ、その身分は尊重され、待遇の適正が期せられるとともに、(エ)の充実が図られなければならない。

- 3 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、(オ)を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

- | | | |
|--------|--------|---------|
| ① 規律 | ② 権利 | ③ 使命 |
| ④ 規範意識 | ⑤ 公の性質 | ⑥ 養成と研修 |
| ⑦ 自己研鑽 | ⑧ 精神 | ⑨ 自立心 |

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
1	2	3	4	5

【2】 次の文は、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日 中央教育審議会）に述べられているものである。「幼稚園教育要領」（平成29年3月 文部科学省）の具体的な改訂の方向性として適切なものを①～⑩から5つ選び、番号で答えよ。

- ① 安全な生活や社会づくりに必要な資質・能力を育む観点から、状況に応じて自ら機敏に行動することができるようにするとともに、安全についての理解を深めるようにする。
- ② カリキュラム・マネジメントは、園長など管理職が幼稚園等の特色を構築していく営みであり、園長など管理職が行っていくことが重要である。また、こうしたカリキュラム・マネジメントを実施していくためには、教員が教育課程を園長など管理職の指導に従い実施していくという基本的な姿勢を持つことも重要である。
- ③ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や小学校の学びを念頭に置きながら、幼児の到達度を決め、何ができるか、できないかを明確に評価し、一つ一つの項目の目標に対して、指導を行うことが必要である。
- ④ 幼児教育における「見方・考え方」は、幼児一人一人の発達に即するのではなく、クラス集団として落ち着き、教員が話している内容を理解できるかということが重要となる。そのために、教員は幼児に環境との関わり方や意味を教え、一つ一つの教育内容を個別に取り出して学ばせるように配慮する。
- ⑤ 幼児期における多様な運動経験の重要性の指摘を踏まえ、幼児が遊ぶ中で体の諸部位を使った様々な体験を重視するとともに、食の大切さに気付いたり、食に対する態度を身に付けたりすることを通じて、幼児の心身の健やかな成長の増進を図るようにする。
- ⑥ 学びの過程の重要性を踏まえ、具体的な活動の中で、比べる、関連付ける、総合するといった、思考の過程を示すなど、思考力の芽生えを育むようにする。
- ⑦ 視聴覚教材等については、幼児教育では、直接体験が重要であることを踏まえつつ、例えば、日頃の幼稚園生活では体験することが難しい体験を補完したりする場合や、幼児がより深く知りたいと思ったり、体験を深めたいと思ったりした場合の活用法を示すことを検討する。
- ⑧ 幼児期における言語活動の重要性を踏まえ、幼児が言葉のリズムや響きを楽しんだり、知っている言葉を様々に使いながら、未知の言葉と出合ったりする中で、言葉の獲得の楽しさを感じたり、友達や教員と言葉でやり取りしながら自分の考えをまとめたりするようにする。
- ⑨ 育成を目指す資質・能力については、幼児教育から高等学校教育までを通じて、見通しを持って系統的に示す必要があることから、幼稚園教育要領における領域構成を削除して、資質・能力の3つの柱に沿って、内容の見直しを図る。
- ⑩ 教育内容の質の向上に向けて、幼児教育においては、幼児の姿や就学後の状況、家庭や地域の現状等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立は必要ではない。

6	7	8	9	10
---	---	---	---	----

【3】 次の(ア)～(コ)は、「幼稚園教育要領 第2章 ねらい及び内容」(平成29年3月 文部科学省)に述べられている5領域の「内容」の一部である。どの領域に属するかを①～⑤から選び、番号で答えよ。但し、同じ選択肢を複数回使用してもよい。

- (ア) 自分でできることは自分です。
- (イ) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
- (ウ) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
- (エ) 自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ。
- (オ) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- (カ) 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。
- (キ) いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
- (ク) 身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
- (ケ) 先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。
- (コ) 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。

- ① 健康 ② 人間関係 ③ 環境 ④ 言葉 ⑤ 表現

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
11	12	13	14	15
(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)
16	17	18	19	20

【4】 次の文は、「幼稚園教育要領 第1章 総則」(平成29年3月 文部科学省)に述べられているものである。
 (ア)～(オ)にあてはまる適切な語句を①～⑨から選び、番号で答えよ。

1 障害のある幼児などへの指導

障害のある幼児などへの指導に当たっては、集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配慮し、(ア)などの助言又は援助を活用しつつ、個々の幼児の障害の状態などに応じた(イ)の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。また、家庭、地域及び医療や福祉、保健等の業務を行う関係機関との連携を図り、(ウ)な視点で幼児への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに、(エ)を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。

2 海外から帰国した幼児や生活に必要な(オ)の習得に困難のある幼児の幼稚園生活への適応

海外から帰国した幼児や生活に必要な(オ)の習得に困難のある幼児については、安心して自己を発揮できるよう配慮するなど(エ)に応じ、(イ)の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

- ① 指導内容や指導方法 ② 長期的 ③ 特別支援学校 ④ 全体的な発達
 ⑤ 日本語 ⑥ 障害の種類や程度 ⑦ 言葉 ⑧ 個々の幼児の実態
 ⑨ 総合的

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
21	22	23	24	25

【5】 次の文は、「幼稚園教育要領 第3章 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項」（平成29年3月 文部科学省）に述べられているものである。（ア）～（オ）にあてはまる適切な語句を①～⑨から選び、番号で答えよ。

- 1 地域の実態や保護者の要請により、教育課程に係る教育時間の終了後等に希望する者を対象に行う教育活動については、幼児の（ア）に配慮するものとする。また、次の点にも留意するものとする。
- (1) 教育課程に基づく活動を考慮し、幼児期にふさわしい無理のないものとなるようにすること。その際、教育課程に基づく活動を担当する教師と緊密な連携を図るようにすること。
- (2) 家庭や地域での幼児の生活も考慮し、教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動の（イ）ようにすること。その際、地域の人々と連携するなど、地域の様々な資源を活用しつつ、多様な体験ができるようにすること。
- (3) 家庭との緊密な連携を図るようにすること。その際、情報交換の機会を設けたりするなど、保護者が、（ウ）という意識が高まるようにすること。
- (4) 地域の実態や保護者の事情とともに幼児の生活のリズムを踏まえつつ、例えば実施日数や時間などについて、（エ）に配慮すること。
- (5) 適切な責任体制と指導体制を整備した上で行うようにすること。
- 2 幼稚園の運営に当たっては、子育ての支援のために保護者や地域の人々に機能や施設を開放して、園内体制の整備や関係機関との連携及び協力を配慮しつつ、幼児期の教育に関する相談に応じたり、情報を提供したり、幼児と保護者との登園を受け入れたり、保護者同士の交流の機会を提供したりするなど、幼稚園と家庭が一体となって幼児と関わる取組を進め、地域における幼児期の教育のセンターとしての役割を果たすよう努めるものとする。その際、（オ）、地域の子育て経験者等と連携・協働しながら取り組むよう配慮するものとする。

- | | | |
|----------------|-------------|----------------|
| ① 弾力的な運用 | ② 健やかな成長 | ③ 近隣学校 |
| ④ 幼稚園と共に幼児を育てる | ⑤ 心理や保健の専門家 | ⑥ 心身の負担 |
| ⑦ 内容を見直す | ⑧ 計画を作成する | ⑨ 家庭の教育力を向上させる |

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
26	27	28	29	30

【6】 次の文は、幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」（平成22年7月改訂 文部科学省）に述べられているものである。よりよい保育を展開していくための幼児理解について適切なものを①～⑩から5つ選び、番号で答えよ。

- ① 幼児を肯定的に見るとは、他の幼児との比較で優劣を付け、優れている面を拾い上げることである。
- ② 活動の意味とは、幼児自身がその活動において実現しようとしていること、そこで経験していることであり、教師がその活動に設定した目的などではない。
- ③ 幼児の発達する姿は、自己主張や異議申し立て、反抗やこだわりなどとして表されることはない。
- ④ 幼稚園における「ねらい」は育つ方向性ではなく到達目標を示したものである。
- ⑤ 幼児理解は、教師が幼児を一方向的に理解しようとするだけで成り立つものではなく、幼児も教師を理解するという相互理解によるものである。
- ⑥ 教師が身体全体で幼児に触れ、その思いや気持ちを丁寧に感じ取ろうとする姿勢をもつことが大切である。
- ⑦ 幼児理解は、教師の前で示す幼児の姿からのみとらえ、その姿から幼稚園という生活の場や教師をどのように見ているかを理解する。
- ⑧ 保育を改善することは、幼児の生活する姿からその子らしさや、経験していること、伸びようとしていることをとらえるというような、いわゆる幼児理解だけでできることではない。
- ⑨ 親が幼稚園と一緒にあって、幼児の教育について考えていこうという気持ちをもつためには、日常の教師の態度が打ち解けたものであり、安心して我が子と幼稚園の話ができるような情報を伝えることが必要である。
- ⑩ 幼児を理解することも、評価することも、子供の育ちをとらえるためのものであり、教師が自分自身の保育を見直し、改善するためのものではない。

31	32	33	34	35
----	----	----	----	----

【7】 次の文は、「学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き」（文部科学省）に述べられているものである。（ア）～（オ）にあてはまる適切な語句を①～⑨から選び、番号で答えよ。

(1) 学校防災マニュアルは、

1. 安全な（ア）を整備し、災害の発生を未然に防ぐための事前の（イ）
 2. 災害の発生時に（ウ）に対処し、被害を最小限に抑えるための発生時の（イ）
 3. 危機が一旦収まった後、（エ）や授業再開など通常の生活の再開を図るとともに、再発の防止を図る事後の（イ）
- の三段階の（イ）に対応して作成する必要があります。

(2) 地震を感知（実際に揺れを感じた場合や緊急地震速報受信時）したと同時に（オ）のための初期対応を図ることが必要です。

日常の指導や避難訓練等によって児童生徒等自身の判断力・行動力を養っておくことが、（オ）につながります。

- | | | |
|------|----------|-------------|
| ① 計画 | ② 危機管理 | ③ 安全確保 |
| ④ 環境 | ⑤ 学校防災体制 | ⑥ 適切かつ迅速 |
| ⑦ 慎重 | ⑧ 心のケア | ⑨ ライフラインの復旧 |

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
36	37	38	39	40

【8】 次の (ア)～(オ) の生き物について、それぞれ適切でないものを①～④から選び、番号で答えよ。

(ア) アゲハ

- ① たまごから成虫になるまで、2週間ほどかかる。
- ② 幼虫は、ミカンやサンショウ、カラタチ、キハダなどの葉を食べる。
- ③ 幼虫は、鳥などに攻撃されると、嫌なにおいのする黄色い角を出して、身を守る。
- ④ 羽化は、おおむね朝方に行われることが多い。

(イ) ナナホシテントウ

- ① たまごから成虫になるまでは、およそ1か月である。
- ② 幼虫も成虫もアブラムシを食べる。
- ③ 成虫は、鳥などに攻撃されると、嫌なにおいや味のする黄色い汁を出して、身を守る。
- ④ 幼虫同士は共食いしないので、一緒に飼育してもよい。

(ウ) カマキリ

- ① 幼虫も成虫も、昆虫などの小動物を食べる。
- ② 共食いをさけるため、1匹ずつ飼うのが基本である。
- ③ 水をよく飲む。
- ④ 昼に活動し、夜は活動しない。

(エ) カタツムリ

- ① 陸に住んでいるが、貝の仲間である。
- ② 歯がないので、藻類や植物の葉、腐葉土などを粘液で溶かして食べる。
- ③ 1匹で雄・雌の両方の機能をもっている雌雄同体という生き物である。
- ④ 真夏の暑い時期は体が乾燥してしまうので、木や草のかげで、殻の入り口に膜を張り、秋の雨が多くなる時期まで眠って過ごす。

(オ) ニホンアマガエル

- ① オタマジャクシは、1か月ほど水中でくらす。
- ② オタマジャクシは、先に前足が生え、その後、後ろ足が生える。
- ③ 両生類の仲間で、オタマジャクシのときにはえら呼吸をし、カエルになると、肺で呼吸する。
- ④ ニホンアマガエルの足には吸盤がある。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
41	42	43	44	45

【9】 下の楽譜について、次の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

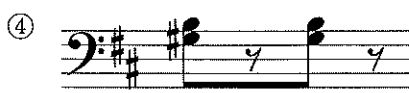
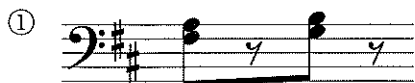
「おつかいありさん」

(1) この曲は何分の何拍子か、①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 4分の2拍子 ② 4分の3拍子 ③ 4分の4拍子
④ 8分の3拍子 ⑤ 8分の6拍子

46

(2) 楽譜（ア）にあてはまる伴奏を①～⑤から選び、番号で答えよ。



47

(3) 楽譜の イ ウ エ に入るコードを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- | | | | | | | |
|---|----------------------------|----|----------------------------|----|----------------------------|----------------|
| ① | <input type="checkbox"/> イ | E | <input type="checkbox"/> ウ | Am | <input type="checkbox"/> エ | G ₇ |
| ② | <input type="checkbox"/> イ | A | <input type="checkbox"/> ウ | D | <input type="checkbox"/> エ | G |
| ③ | <input type="checkbox"/> イ | A | <input type="checkbox"/> ウ | F | <input type="checkbox"/> エ | G ₇ |
| ④ | <input type="checkbox"/> イ | Am | <input type="checkbox"/> ウ | D | <input type="checkbox"/> エ | G ₇ |
| ⑤ | <input type="checkbox"/> イ | E | <input type="checkbox"/> ウ | A | <input type="checkbox"/> エ | G |

48

(4) 楽譜の (オ) の記号の意味を①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① その音を短く切って
- ② その音の長さをじゅうぶんに保って
- ③ なめらかに
- ④ その音符をほどよく延ばして
- ⑤ その音を目立たせて、強調して

49

(5) この曲は何調か、①～⑤から選び、番号で答えよ。

- | | | |
|-------|-------|-------|
| ① ハ長調 | ② ニ長調 | ③ ホ長調 |
| ④ ヘ長調 | ⑤ ト長調 | |

50

【10】造形に用いる材料や用具について、次の問いに答えよ。

(1) 次の(ア)～(エ)について、適切なものは①、適切でないものは②を選び、番号で答えよ。

(ア) 紙には縦目と横目のある物があり、折ったりやぶったりする活動では注意が必要だが、新聞紙は再生紙を原料とするため、縦目・横目はない。

(イ) 化学接着剤は付けるものを選ばないので、どんな材料でも付けることができるので便利である。

(ウ) のりを使って紙を接着する際の基本は、ムラなく、薄く、全面に手早く付けることである。

(エ) クレヨンには、ロウ分が多く含まれるので、水彩絵の具をはじくパチックなどの表現に使用できる。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
51	52	53	54

(2) 水彩絵の具の使用に適さない表現を次の①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① デカルコマニー (合わせ絵)
- ② フロッタージュ (こすりだし)
- ③ フィンガーペインティング
- ④ にじみ
- ⑤ ドリッピング (吹き流し)

【11】 次の (ア)～(オ) の絵本の一節をA群の①～⑤から、作者名をB群の⑥～⑩から、それぞれ選び、番号で答えよ。

- (ア) いたずら きかんしゃ ちゅう ちゅう
- (イ) かもさん おとおり
- (ウ) はなのすきなうし
- (エ) ちいさなねこ
- (オ) ふらいばん じいさん

A群

- ① 「そうだ、ひろい よのなかに できれば、
この わしだって、なにか
やれそうなものだ。よし、でかけよう。
あたらしい せかいで、だれかが わしを
まっているかもしれない。」
- ② ジムと オーリーと アーチボールドは
かけて かけて くたびれて、もう
これいじょうは かけられなくなりました。
- ③ こうえんに すてきないけが あって、そのなかに ちいさなしまが ありました。
「こんや やすむのに おあつらえむきのばしょだね」と、
マラードさんが いいました。
- ④ ふえるじなんどの おかあさんは、
ときどき、むすこの ことが しんぱいに になりました。
ひとりぼっちで さびしくは ないかしらと、おもうのでした。
- ⑤ そして、また どんどん
はしっていく。
あ、じどうしゃの ほうへ
とびだした。
あぶない！

B群

	作	絵	訳
⑥	石井 桃子	横内 襄	
⑦	マンロー・リーフ	ロバート・ローソン	光吉 夏弥
⑧	神沢 利子	堀内 誠一	
⑨	ロバート・マックロスキー	ロバート・マックロスキー	わたなべ しげお
⑩	バージニア・リー・パートン	バージニア・リー・パートン	むらおか はなこ

	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
A 群	56	57	58	59	60
B 群	61	62	63	64	65

【12】 次の (ア)～(オ) の事項に最も関係の深い人物を①～⑨から選び、番号で答えよ。

(ア) スイスの心理学者・精神医学者。人間の心の奥深くに潜む普遍的な無意識を重視し、この精神をもつ人類共通な無意識を“集合的無意識”にとらえ、フロイトの示した抑圧的無意識を“個人的無意識”として区別している。この集合的無意識と個人的無意識の中心に自己を置いてとらえ、意識の中心である自我を人格の中心とは考えていない。現象としての人間存在そのものを純粹にとらえようとした。

(イ) 小説家・児童文学作家。新潟県に生まれる。早稲田大学在学中、坪内逍遙に師事。当時全盛であった自然主義に対し、新浪漫主義の立場をとって独自の道を歩んだ。1910年、童話集『赤い船』を出版。1918年『星の世界から』を刊行。つづいて「金の輪」「牛女」「赤い蠟燭と人魚」「野薔薇」を発表し、1926年に小説を捨て童話に専念することを宣言。童話を文学に高めた先駆者としての役割を果たした。

(ウ) チェコの牧師で教育思想家。「近代教育学の父」とも呼ばれている。彼の主著『大教授学』(1657)は世界最初の教育学の体系的書物であり、この中に彼の教育思想が展開されている。教育はすべての人にとって必要なものであるとし民主的な学校制度を主張し、幼年期から青年期まで6歳ずつ4段階に区分し、発達段階に応じた教育の必要性を説いた。また、すべての学習や認識は感覚から始まるとし、感覚器官を重視した点と、子どもの内から伸びる力を認め、遊びや活動を重視した。

(エ) アメリカの心理学者。人間の健康的な側面を重視した人間性心理学を確立した。人間はみずから進んで成長したいという欲求をもっており、最終的には健康な人間の理想である自己実現の欲求へと進む段階を、①生理的欲求、②安全の欲求、③愛情の欲求、④自尊の欲求、⑤自己実現の欲求の5つの階層的欲求理論として論じた。欲求が欠けた時には充足を求める行動が生じ、これを欠乏欲求と考えた。

(オ) 東京女子師範学校附属幼稚園の創設当時の主任保母であり、わが国における幼稚園教育の基礎を築いた先駆者。フレーベルの設立した養成学校で保育の理論と実際を学び、1876年に来日した。1878年には同校に保母師範科ができ、そこでフレーベルの二十恩物大意などを講義し、フレーベルの理論を保母たちに伝えた。幼児教育草創期のわが国への影響は大きいものがあった。

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| ① キルパトリック | ② 松野クララ | ③ ヴィゴツキー |
| ④ 小川未明 | ⑤ キュックリヒ | ⑥ マズロー |
| ⑦ ユング | ⑧ 鈴木三重吉 | ⑨ コメニウス |

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
66	67	68	69	70